



冬がすぐそこまで近づいています。転ばぬ先の杖、自分の健康管理と共に、今回は、冬に注意すべき感染症についての知識です。お話は、リンクナース委員会からです。

ノロウイルス感染症について…冬季に多く発症 通常11月～12月がピーク

主症状は吐き気、嘔吐、下痢で、稀に発熱を伴います。感染力が非常に強く、わずかな接触で容易に感染します。感染には、**接触感染**と**飛沫感染**があります。**接触感染**とはノロウイルスで汚染された手指、衣服、物品等を触る(接触することによって感染する)場合をいいます。最終的には接触後汚染された手指や物品を口に入れる(なめるなど)ことにより、ウイルスが体内に入り、感染します。

飛沫感染とは、ノロウイルス感染症を発症している患者の吐物や便が床などに飛び散り、周囲にいてその飛沫(ノロウイルスを含んだ小さな水滴、1～2m位飛散)を吸い込むことによって感染する場合があります。

感染してしまった場合は、ノロウイルスに対する特効薬はないため、対症療法のみとなります。とくに脱水をいかに避けるかが重要です。

嘔吐物や便の付着した衣類や寝具は感染源です。対処方法として85度以上の煮沸消毒1分間、もしくは塩素による消毒(2リットルのペットボトルに塩素系漂白剤をペットボトルキャップ2杯入れて水を満たしたものに1時間つける)が有効です。

☆0.02%次亜塩素酸ナトリウム

①市販の塩素系漂白剤(5～6%)をペットボトルのキャップ2杯分 ②水を加えて容量を2Lとする



2L ペットボトル

インフルエンザについて…冬季の11月～翌年3月頃まで発症

症状は急激な発熱、倦怠感や食欲不振のような全身症状が熱と共に一気に出てきます。インフルエンザは感染者の咳や鼻水を別な人が吸い込み**飛沫感染**します。また感染者がくしゃみや咳を手で押さえ、その手で周りのものに触れてウイルスが付き、別の人がその物に触ってウイルスが手に付着、その手から口や鼻へという経路で**接触感染**します。

1～2日の短い潜伏期間の後に発症し、38度以上の高熱が3～5日持続します。

どちらの感染症にも大切なことは、**マスクの着用**とこまめな**手洗い**、**うがい**です。正しい手洗い方法は院内洗面所に張ってある**手順を良く見て**行ってください。手洗いは、外出先からの帰宅時、調理の前後、食事前などこまめに行いましょう。

家族に罹患患者が出た場合や、感染者への接触があった場合には特に予防対策を徹底する必要があります。

透析患者さんの中で上記のような疑わしい症状が現れた場合は、病院バスを利用できなくなります。透析曜日も変更となる場合がありますので、自己判断せずに、病院バスには乗らず、まず病院に電話で連絡を頂きますようお願い致します。 0172-87-1221 鷹揚郷弘前病院

ワンポイントアドバイス ～薬剤部～

「お薬が出来るまで」

部長 大里 武司
皆さんが普段目にしてのお薬が、どのように開発されてお手元に届いているかご存知でしょうか？



まずは薬の主成分を探るところから始まります。実験室で作られたり、場合によっては海外の山奥などで、土や葉っぱ、水などを採取し持ち帰って分析します。その中から主成分の候補となるものを割り出し、100万種以上保管している製薬メーカーもあります。その候補化合物1つ1つについて期待する効果があるか、安全性に問題はないか、ターゲットに届けられるのか…など検討され、100万種から3000種、300種と絞られていき、最終的には数10種類に絞られます。ここまで2～3年もの歳月がかかります。

次にその化合物を、細胞や動物に投与して有効性や安全性などを調べます。これを「**非臨床試験**」と言い、さらに候補を絞ります。

この過程は3～5年かかります。

次は実際にヒトで有効性や安全性を確認する「**臨床試験**」へ移行します。いわゆる「**治験**」と呼ばれるところです。この過程は3ステップあり、まずは少数の健康な人。次に少数の患者さん。最後に多数の患者さんに使用し3～7年もの歳月をかけてデータを集積、分析します。

最後に厚生労働省に製造、販売を認めてもらうための「**承認申請**」を行います。そのために必要な資料が膨大な量で、すべてプリントアウトしたら「トラック1台分」にもなるそうです。そこで1～2年、審査や協議を行い、ようやく「**承認**」となり新しいお薬が誕生します。

成分候補からおよそ3万分の1の確率で、トータルで10年～17年、300億～1000億円の開発費をかけようやく「**新薬**」が完成します。

皆さんが飲んでいるそのお薬には、**開発者たちの情熱とロマン**が、たくさん詰まっています。そう考えるとき、その1錠が、とても尊く、大切なものに思えてくるのではないのでしょうか。



患者友の会より

11月11日(日)に開催する勉強会には、たくさんの患者さんやご家族の方々のご参加をお願い致します。

講師 弘前病院臨床工学技士長
勢州谷 忠昭 氏

第14回弘前地区腎友会勉強会

- ▽とき 11月11日(日)、午後1時～3時(午後0時30分開場)
- ▽ところ 市民文化交流館ホール(駅前町、ヒロロ4階)
- ▽テーマ 透析の歴史とその背景
- ▽講師 勢州谷忠昭さん(鷹揚郷腎研究所弘前病院臨床工学技士長)
- ▽参加料 無料
- ※事前の申し込みは不要。
- ☎ 弘前地区腎友会事務局(蒔苗さん、携帯 080・6003・3012、火・木・土の午後は休み)

広報ひろさき11月号掲載より

☆国会請願の署名がまだの方は是非ご協力お願い申し上げます。

鷹揚郷弘前病院患者友の会 会長
蒔苗 和雄

第3回鷹揚郷腎疾患セミナーのご報告

テーマ:「**帯状疱疹と足爪白癬の診療**」

講師:澤村 大輔(さわむら だいすけ)先生
(弘前大学大学院医学研究科
皮膚科学講座教授)

2018年11月1日(木)17:30～
鷹揚郷・腎研究所・弘前病院 3F講堂にて開催



澤村大輔先生



真剣に見入って聴いている職員



リレー寄稿

こんにちは。第2透析室の小野由香です。

最近、空前の猫ブームといわれており、猫好きとしては嬉しい限りです。そこで、**我が家の猫たちを紹介したいと思います。**

我が家には3匹の猫がいます。まず**1匹目は白黒の「みみ」18歳**。根暗で神経質な性格、ケンカが弱い、とあまりいいことが無さそうですが、スタイル抜群で、シュッとしています。(笑)そして鳴き声が一番かわいいのが「みみ」です。

2匹目はさび猫の「ちこ」16歳。甘えるのが得意で、人懐っこい性格です。カラスに襲われ、前足がちぎれそうになっていたのを保護しました。すぐ切断となり、3本足になりました。不満足な身体ですが、甘えることが得意な「ちこ」は、外出をすると、雄猫と同伴で帰宅することがたびたびありました。まるで、親に彼氏を紹介しているかのような。猫の世界にも、「家まで送るよ」みたいな会話があるのかな～と想像しました。

3匹目は白猫の「はな」6歳。争いは好まない、おっとりした性格です。拾われてきた日から家族皆のアイドルとなりました。見た目もかわいいのですが(ただの親ばかりです)、ジャンプが苦手などんくさいところや、へそ天で眠る姿も、何か欲しそうに見上げる姿もまたかわいいのです。

そんな3匹の猫たちに、私は毎日癒されています。

さて、次は臨床工学技士の小浜さんにバトンタッチです！私の中では、彼のプライベートがとても謎なので、どういう話が聞けるのかとても楽しみです。

【編集後記】

弘前では菊ともみじ祭りが終盤を迎えています。岩木山はうっすら雪景色。
発行: 鷹揚郷 広報部

